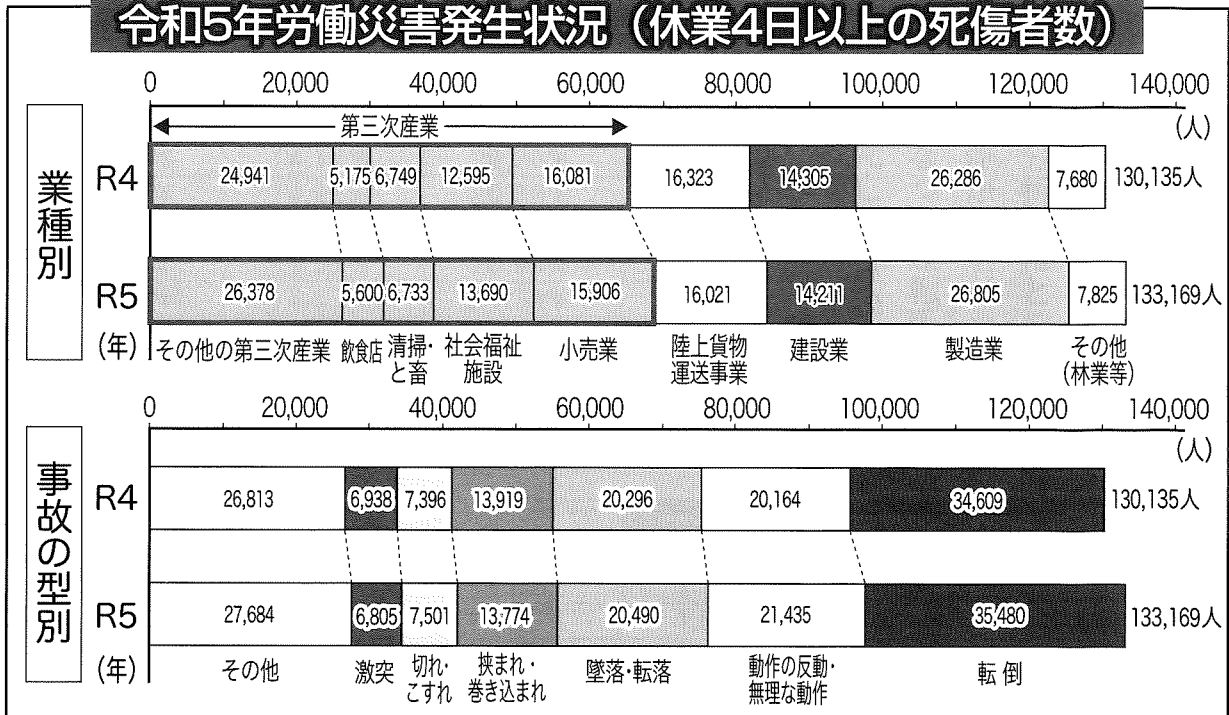


労働災害の増加傾向が止まらず

働く人の高齢化で「転倒災害」が急増

令和5年労働災害発生状況（休業4日以上死傷者数）



このほど令和5年の労働災害発生状況が厚生労働省から発表されました（3月速報値）。死亡災害は725件で、前年より19件（2.6%）減少したものの、休業4日以上の死傷災害は13万3169人と前年に比べて3034人（2.2%）増えており、近年の増加傾向が続く結果となっています。

休業4日以上の死傷災害を業種別にみると、製造業が2万6805人と最も多く、前年比でも519人増となっています。次いで、建設業、陸上貨物運送事業が多くなっていますが、これらの業種は前年比では減少しています。

事故の型別では、「転倒災害」が3万5480人で最も多く、前年比でも871人増、ここ20年位の推移を見ても増加傾向に歯止めがかからない状況です（本号P.4参照）。今後働く人の高齢化が進行することから、その対策が重要です。

次いで、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」、「墜落・転落」による災害が多く、前年比でも増加しています。

労働災害を防止するため、安全対策の徹底を図りましょう

安全衛生トピックス

車運転の女性 負傷率は男性の1.45倍

— 職場の危険・有害作業対策の見直しを —

■ 負傷率

| 年 | 男性 | 女性 | 男女差 |
|--------|--------|--------|-------|
| 2013年 | 14.11% | 20.43% | 1.45倍 |
| 14年 | 14.16% | 20.51% | 1.45倍 |
| 15年 | 14.14% | 20.76% | 1.47倍 |
| 16年 | 14.22% | 20.88% | 1.47倍 |
| 17年 | 14.63% | 20.90% | 1.43倍 |
| 18年 | 14.53% | 20.99% | 1.44倍 |
| 19年 | 14.67% | 21.34% | 1.45倍 |
| 20年 | 15.22% | 22.19% | 1.46倍 |
| 21年 | 15.26% | 22.19% | 1.45倍 |
| 22年 | 15.41% | 22.31% | 1.45倍 |
| 13~22年 | 14.51% | 21.05% | 1.45倍 |

■ 車の損傷状況別負傷率

| 車の損傷 | 男性 | 女性 | 男女差 |
|------|--------|--------|-------|
| 大破 | 45.76% | 57.03% | 1.25倍 |
| 中破 | 32.62% | 45.02% | 1.38倍 |
| 小破 | 10.46% | 16.35% | 1.56倍 |
| 損傷なし | 4.98% | 8.09% | 1.62倍 |

※警察庁のデータを上智大学経済学部竹内明香准教授（経済統計学）らの助言を受け分析した

自動車運転中に事故に遭った際、女性は男性より1・45倍ケガをしやすい…。

毎日新聞社が警察庁の持つ過去10年分の事故データを分析したところ、性別による負傷リスクの差が浮かび上がってきました。

対象となった運転手は男女計178万6680人を「死亡」「重傷」「軽傷」「ケガなし」に分

類し、人的被害があった場合の大半を占めている「重傷」「軽傷」に着目しました。

事故に遭った時にケガをした割合は、女性が21・05%で、男性（14・51%）の1・45倍でした。年齢別に見ても、1・43〜1・47とほぼ一定でした。

車の損傷程度別に負傷率を比べると、女性は「大破」で男性の1・25倍、「損傷なし」でも1・62倍となり、小さな事故ほど男女差は開きました。

男性がケガしやすい程度の軽い事故で、女性はよりケガをしやすい傾向が表れていました。

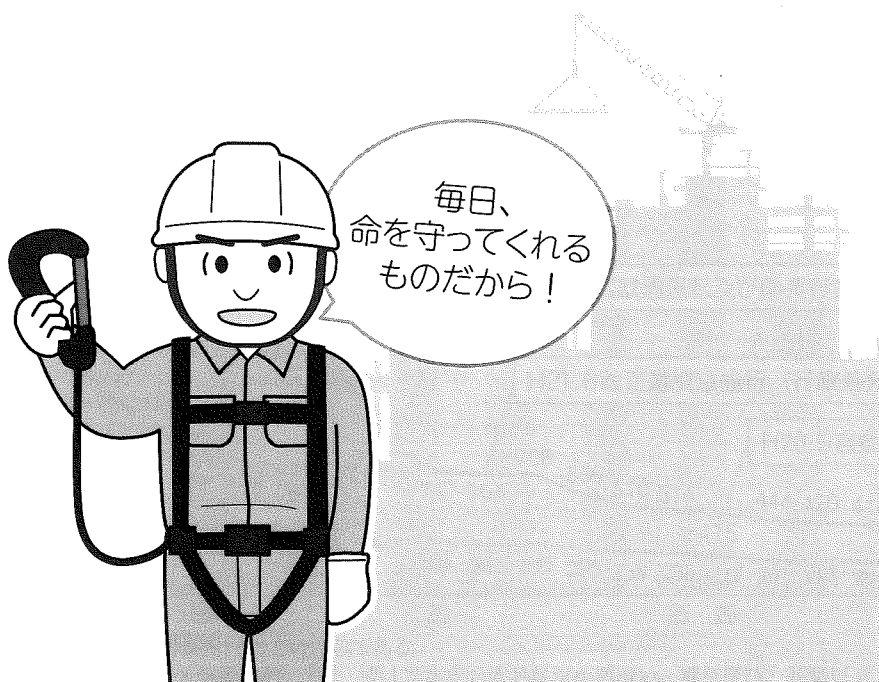
スウェーデン国立道路交通研究所の専門家は、「自動車事故における『女性の保護』は長く見過ごされてきた」と指摘して、「性差なく誰にとってもより高い安全性の確保が重要だ」と話しています。

近年我が国でも、色々な分野で男女差の撤廃や改善等が進められていますが、特に危険・有害作業については、労働基準法や労働安全衛生法等では女性の作業について規制や制限が定められています。これらのことも念頭に安全衛生対策を実施していくことが肝要でしょう。

（資料・詳細「毎日」24・03・08ほか）

規格不適合の墜落制止用器具に注意

・・・規格に適合した器具を、正しい使用方法で・・・



厚生労働省は、高所作業等の際に使用が義務付けられている墜落制止用器具（安全帯）の安全性を確認するため、令和5年度の買取試験を行いました。一部の製品で、規格で定める要件を満たしていないものが確認されました。

買取試験は、国内で販売されているフルハーネス型40種、胴ベルト型10種を対象に、具備すべき構造・性能・強度等の要件を満たしているかを確認するために実施しています。要件を満たしていない器具は、いざという時に作業者の命を守る機能を発揮できない恐れがあります。

厚生労働省は販売者に対して当該商品の回収等を要請し、合わせて使用を中止するようウェブサイトで公表し注意喚起を行っています。

○事業所で使用する器具の確認
事業所においても、導入した器具がこれに該当していないか確認が必要です。

また、現在使用している他の器具についても、不具合がないかどうか確認しましょう。

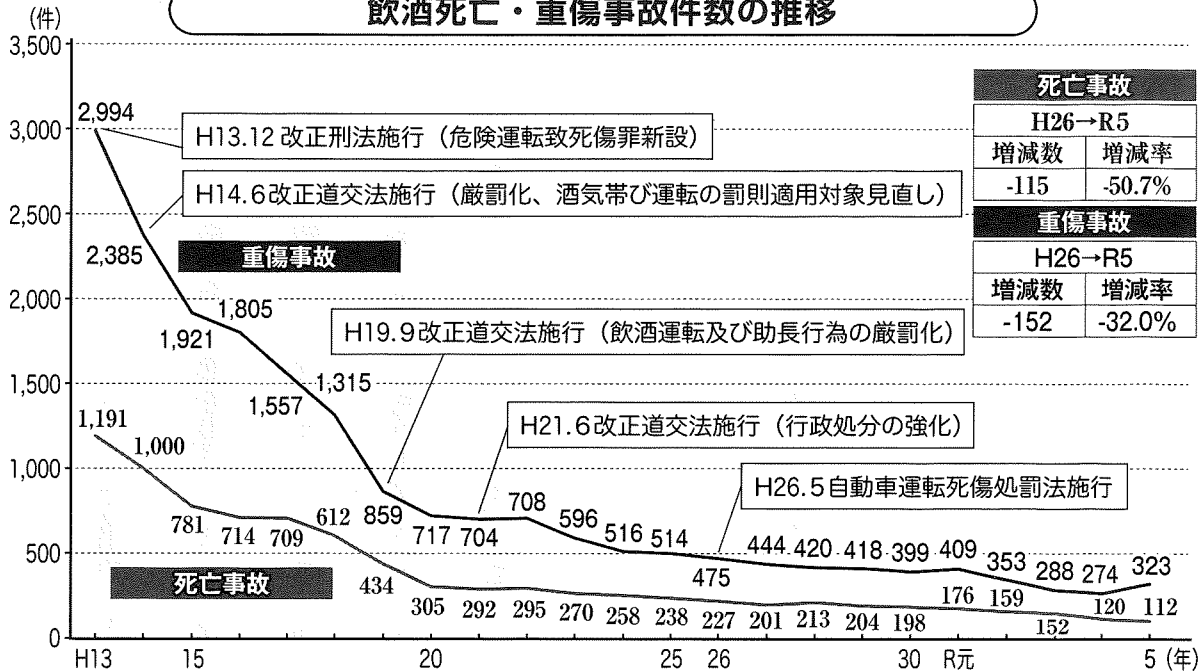
令和5年度の労働災害における墜落・転落事故の発生件数は前年比で増加傾向にあります。

現場でも、墜落・転落事故「0」のため、ベテランも新任者も、全員が適切な器具を正しく使用し、また器具の点検を実施していくことが肝要です。

飲酒運転による重傷事故が増加傾向

飲酒運転での事故死亡率は6倍

飲酒死亡・重傷事故件数の推移



注)・第1当事者が原付以上の件数である。

・「飲酒死亡・重傷事故」とは、第1当事者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当する場合の死亡・重傷事故をいう。

令和5年中の飲酒運転による事故での死亡・重傷事故件数は435件となり、これは平成13年12月の改正刑法(危険運転致死傷罪新設)以降減少傾向が続いていた飲酒運転が、令和5年では増加に転じたこととなります。

交通事故発生件数に占める死亡事故の割合をみると、飲酒運転の場合は、飲酒なしの場合と比較して約6倍となっており、飲酒運転事故の重大性・悲惨さがわかります。

これらの飲酒運転による事故件数は、たまたま事故を起こして警察が飲酒の状態を調べたら判ったもので、飲酒運転の実態ははるかに多いと推察されています。

令和5年中の飲酒死亡・重傷事故を通行目的別に過去年と比較すると、訪問、送迎、ドライブで、目的等は特段大きな変化はみられません。通勤、買物での事故が増加し、また、飲食目的が大幅に増加しています。

ともかく、「飲んだら乗るな」「飲むなら乗るな」を、本人はもとより、周りの人も徹底を図る必要があります。

(引用・詳細「月刊交通」24年3月号)

海外の事故・災害から

…2024年3月…

- ▼アメリカ ミシガン州デトロイト郊外 電子タバコ製造施設で大規模火災で爆発が続く。倉庫でボタンや亜鉛化窒素など違法保管。死者不明1人、負傷1人。
- ▼ドイツ ブランデンブルク 送電鉄塔が火災。電気自動車メーカー工場や周辺の街が停電。
- ▼アメリカ ジョージア州 工場で作業中の女性作業員が、落とした私物のイヤホンを拾おうとしてベルトコンベヤーに腕を巻き込まれて死亡。
- ▼中国 広東省 少年3人が道路脇に積まれた砂山に登って遊んでいたところ、砂が崩れて生き埋めになり3人とも死亡。
- ▼中国 河北省 ビル1階の唐揚げ店でガス漏れによる爆発、火災。4階建てビルが崩れ落ち、周囲にがれきが散乱。死者不明7人、負傷27人。
- ▼アメリカ カリフォルニア州 ガソリンスタンドでエンジンをかけたまま停車していたトラックが動き出し、近くにいた女兒がはねられて死亡。
- ▼インドネシア スマトラ島沖 151人が乗った密航船がインド洋で転覆し漂流。死者不明70人以上。
- ▼中国 台湾 電子機器製造工場で、6階に設置された空調設備が燃えて、464人が避難。
- ▼アメリカ メリーランド州 川の河口付近にかかる高速道路の橋脚に大型コンテナ船が衝突して橋が崩落。橋の補修工事をしていた作業員8人が川に落下し、救助された2人のうち1人が重体、死者不明6人。船からの救難信号により橋の交通は遮断。
- ▼南アフリカ 北部リンポポ州 隣国ボツワナから客を乗せて教会に向かう途中の山中を走っていたバスが、橋から約50m下の岩場に転落して炎上。死者不明45人以上、重傷1人。
- ▼中国 江西省 暴風雨が吹き荒れて高層マンションの窓が吹き飛び、就寝中の住民が投げ出される。家屋約5400軒損壊。死者7人、負傷者10人以上。
- ▼アメリカ テキサス州 幼稚園児44人を乗せた遠足帰りのスクールバスとセンターラインをはみ出してきた対向車線のトラックが衝突し、スクールバスが横転。バスに乗っていた園児1人と事故に巻き込まれた別の車の運転手が死亡。

〔資料・引用〕災害情報 早稲田大学理工学術院総合研究所編集発行、ほか